

— 所沢飛行場ものがたり —

所沢飛行場の戦後



未返還の土地は現在米軍の通信基地となっている。(2018年撮影)

昭和20(1945)年8月15日の終戦から二日後の8月17日、閑院宮春仁王以下陸軍参謀は、南方軍部・第7方面軍・第10方面艦隊司令部に終戦趣旨伝達のため所沢飛行場から出発し、上海＝広東＝ツーラン＝サイゴン＝シンガポール＝サイゴン＝南京を経て24日に帰航しています。

8月24日以降は米軍の命令により一切の日本の航空機の飛行が禁止され、所沢飛行場は終焉を迎えました。8月30日にダグラス・マッカーサー元帥が厚木に到着、所沢の町も同年9月初旬から11月下旬にかけて、機関銃を付けたジープを先頭に大型トラックに乗った武装米兵が、旧所沢陸軍整備学校跡に進駐してきました。米軍各部隊が次々と進駐して所沢飛行場はキャンプ・トコロザワとなり、10月上旬には所沢飛行場に残された多数の飛行機は破壊されました。



終戦によりプロペラを外して武装解除した所沢飛行場の三式戦闘機飛燕



終戦の翌年3月に米軍が撮影した元所沢飛行場の滑走路付近の写真には破壊された機体の残骸が写っている。出典：国土地理院ウェブサイト

昭和25(1950)年、朝鮮戦争が勃発し所沢基地は車両や兵器を修理する兵器廠となり、昭和36(1961)年5月頃には基地で働く人の数は約4,800人のピークを迎え、多くの市民が雇用されました。一方、高度成長期の人口増加や都市化の波は、広大な土地を占める米軍基地の返還運動の気運を高め、昭和36(1961)年12月、所沢市議会で所沢基地の一部返還要求が決議されました。

第一次返還として、昭和46(1971)年に基地面積の約6割にあたる1,918,831㎡が返還されました。続いて第二次返還として、昭和53(1978)年に97,593㎡、さらに第三次返還として、昭和57(1982)年に13,525㎡が返還され、あわせて約7割が日本に返還されています。返還されたエリアには、昭和53(1978)年、埼玉県が「所沢航空記念公園」を開設したほか、数々の公共機関や住宅などが整備され、平成5(1993)年には「所沢航空発祥記念館」が開館しました。



駐留する米軍憲兵



所沢の街中を走る大型トレーラー



返還された土地の一角には平成5(1993)年に所沢航空発祥記念館が設立された。